



リビア (Libya)



- リビアへの援助総額は2014年までに累計約10億円。
- 2006年に総理特使がリビアを訪問した際に、ODA再開の方針を表明。DAC分類において高中所得国に位置づけられていることから、人材育成をはじめとする技術協力を中心に実施。
- 2011年には、武力衝突により発生した負傷者に対する義肢・義足支援等を内容とする緊急人道支援を実施。

国概要

(基礎データ)

- ・面積: 176万平方キロメートル(日本の約4.6倍)
- ・人口: 628万人(2015年)
- ・首都: トリポリ
- ・民族: アラブ人
- ・言語: アラビア語
- ・宗教: イスラム教(スンニ派)
- ・政体: 民主制
- ・議会: 一院制(200議席)
- ・GDP: 29億ドル(2015年, 世界銀行)
- ・GNI: 一人あたり 6,030ドル(2015年, 世界銀行)
- ・経済成長率: -24%(2014年, 世界銀行)
- ・失業率: 約30%(2009年, リビア当局)

※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。

(略史)

1911年	イタリアによる侵攻 その後、1938年に併合
1951年	リビア連合王国(イドリース王国)として独立
1969年	9月1日革命 カダフィ大尉(当時)によるクーデター 国名を「リビア・アラブ共和国」に改称
1977年	人民主権確立宣言(ジャマーヒリーヤ宣言) 発表 国名を「社会主義リビア・アラブ・ジャマーヒリーヤ国」に改称
2011年	カダフィ政権に対する反政府デモがリビア全土で勃発し、同年8月同政権崩壊 国名を「リビア」に改称

援助実績

スキーム	額(累計)／人数(延べ)
無償資金協力	約6.5億円 (2014年度末時点)
技術協力	約3.5億円 (2014年度末時点)

出典: ODA国別データブック2015
青年海外協力隊事務局統計(平成28年6月末)
(注) 青年海外協力隊には、短期派遣ボランティアを含む。

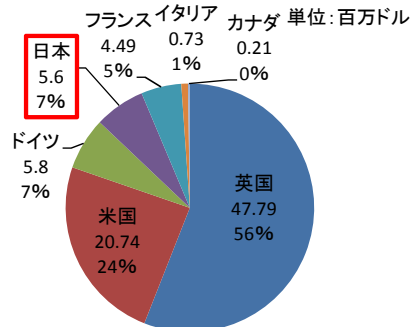
経済関係

スキーム	金額／人数(直近年)
日本からリビアへの輸出	約44.7億円 (2015年度, 財務省貿易統計)
リビアから日本への輸出	約7.6億円 (2015年度, 財務省貿易統計)
在リビア日系企業数	1社 (2015年, 海外在留邦人数調査統計)

人的つながり

項目	人数(直近年)
在日リビア人数	54人 (2016年6月, 在留外国人統計)
リビアから日本への留学生数	11名 (2016年6月, 在留外国人統計)

リビアへの主要ODA供与国 (G7加入国: 2014年実績, 出典: OECD/DAC)



日本とリビアとの協力年表

年代	案件
1957年	外交関係樹立
1971年	駐日リビア大使館開設
1973年	在リビア大使館開設
2000年	柔道専門家5名派遣
2000年	DAC分類によりODA卒業国となる
2005年4月	「砂漠は沈黙ではない」展(リビアの現代考古学美術展)開催
2005年	柔道専門家3名を招へい
2005年	日本国際博覧会(愛・地球博)に公式参加
2006年	総理特使がリビアを訪問した際に、ODA再開の方針が表明された
2008年	技術協力(電子技術及び放射線医療関係研修員受入れ)を開始
2011年2月	カダフィ政権に対する反政府デモがリビア全土で勃発
2011年	武力衝突により発生した負傷者に対する義肢・義足支援等を内容とする緊急人道支援を実施
2012年	平成23年度補正により、国連常駐調整官能力強化プロジェクト(UNDP): 35万ドル, 人道支援継続と復興へ向けた早期復旧プロジェクト(UNDP): 46万ドル, 移行期統治機構支援プロジェクト(UNDP): 505万ドルを拠出
2012年1月	外務省、経産省、民間企業17社、政府関係6機関からなる官民合同経済ミッションを派遣、新生リビアの国造りへの日本企業の参画の可能性等についてリビア要人と意見交換
2012年6月	外相間で投資協定の交渉開始に合意、同年9月に予備的協議を実施
2012年	義肢・リハビリテーションに携わる関係機関担当者や技術者を招へいし、マネージメント研修や製作研修を実施
2013年	平成24年度補正により、地雷除去・武器不拡散支援(UNMAS): 180万ドル, 移行期における女性に対する暴力対策支援(UNWoman): 100万ドル
2013年9月	テロ対策法制度強化計画(UNODC)に350,000ドルを米国と協同で拠出
2014年	平成25年度補正により、地雷除去・武器不拡散支援(UNMAS): 520万ドル, 警察支援プログラム(UNDP): 200万ドル, 刑務所改革支援プロジェクト(UNODC): 40万ドル
2014年7月	治安情勢の著しい悪化により、在リビア大使館が退避



リビアの柔道への関心は高く、2000年及び2004年に、柔道専門家を派遣している。写真は2006年に中東の4ヶ国(リビアほか、イラク、アフガン、シリア)から柔道選手団が来日した時の様子。

“Yellow and Blue is Green”(「砂漠の黄色」と「水の青」が生命を象徴する緑を生み出す)をテーマとするパビリオンを出展し、環境の大切さなどを訴えた。



ベン・カイヤー・リビア外務国際協力大臣(左)と玄葉外務大臣(右)(どちらも当時)